

雨の日は顔を上げて

池田 梨紗

私達は「雨」に対してどのようなイメージをもっているのでしょうか。専業主婦である私の母は、雨の日は家事をかんばらなくていい気がしてホッとできるそうです。しかし、通勤・通学を余儀なくされている父や私にとつて、雨は煩わしく、水たまりをさけるために下ばかり見て歩くので気分も減入ってしまいます。一般的な「雨」のイメージはどちら

1

2

かというとは後者よりで、ゆううつな気分になつたり、外出がおっくうになるといったマイナスのイメージであらうと想像します。雨が苦手な私にも雨の日が楽しみだった時期がありました。それは、小学生のとき、雨が降つて表面が濡れると模様が浮かび上がるという傘を使っていたころです。濡れれば濡れるほど鮮明に模様が浮かび上がるので、とても強く降れたいと願っていたのを覚えています。私は、この傘の技法を家やマンション、才

ファイスビルの外壁などに応用できたらおもしろいと考えました。いつも見慣れている街並みか雨の日だけ特別に浮かび上がる模様によつて違ったものに見えたり、時にはいつも通らない道を通ってみたり、雨の日の外出が楽しくなくなりそうです。また、企業であれば自社やショーツピングセンターなら、雨の日お得情報<sup>レ</sup>を浮かび上からせるとおもしろいと思います。

さらに雨の強さ、降った時間等で浮かび上がる模様の鮮明さを応用したり、内容を工夫することです。事故防止や防災に役立てられないかと考えます。例えば、雨が降ると道路にスリッパ<sup>レ</sup>注意と浮かび上がると事故防止に役立つそうです。また、雨の中外出しているとき、どこかの外壁に、より鮮明な模様や、異常を知らせる警告のようなものが浮かび上がっていたら警報を確認するといふ注意喚起のような働きもできるのではないでしょう。

自分の目で雨量や危険度を確認できたらより安全に近づくのではないかと思います。

言うまでもなく雨は私達の生活に様々な恩恵を与えてくれます。しかし、私達は雨をコントロールするとかできないので、時として甚大な被害を受けてしまうのも事実です。だから、雨によって引き起こされる災害も雨によって防ぐとかできたら素晴らしいと思います。雨の日は、傘をさして下ばかり歩いて歩くいつもの道を、雨の日だけ浮かび上がる

模様を眺めながら今までより顔を上げて歩きたいです。